

なりたの昔話

第4回

永福寺の大般若経

昔、飯岡村(現成田市飯岡)の永福寺に、三蔵法師の直筆だといわれた古い般若経がありました。これには、一つの言い伝えが残っています。

その昔、このお寺に、一人のお坊さんが訪ねてきて、一晚泊まっていくことになりました。しかし、夜更けになっても部屋は明るく、何かしている様子だったので、お寺の住職は、そっと部屋のすき間から中をのぞいてみました。

するとどうでしょう。中には一人しかいないはずなのに、何人もお坊さんがいて、一生懸命、何かを書いていました。しかし、驚いたお寺の住職の気配を感じてか、部屋の明かりが突然消え、真っ暗になってしまいました。

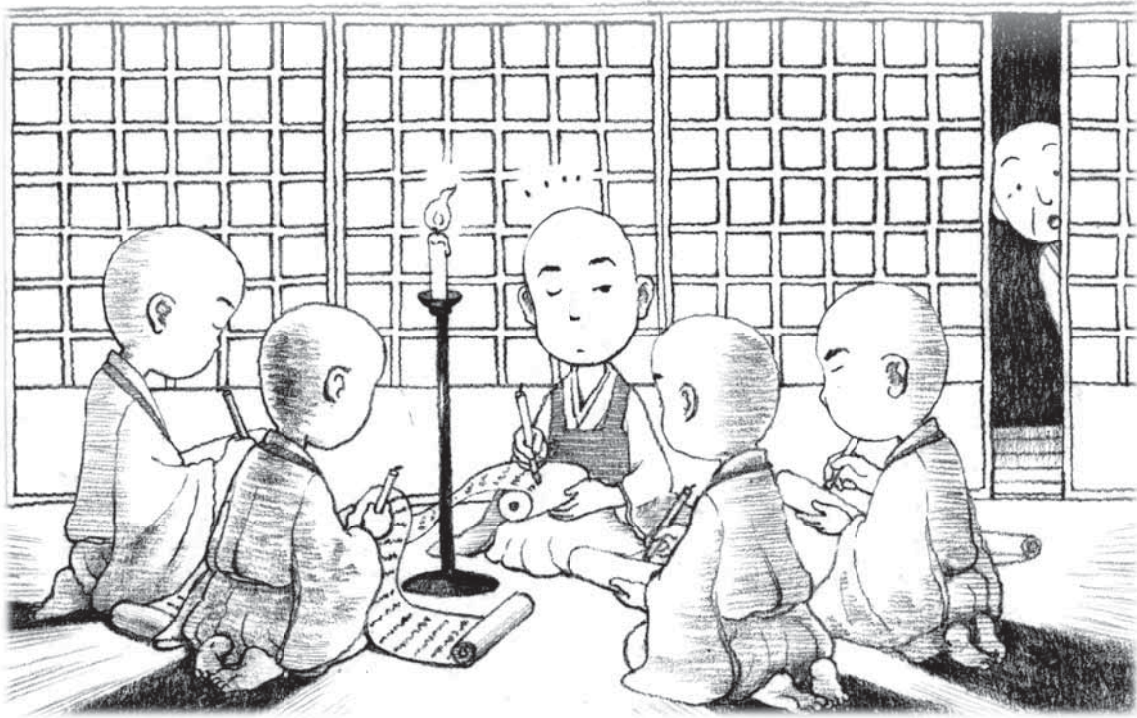
あくる朝、住職が部屋の中へ入ったところ、もうだれもいませんでした。ただ、中には、書いたばかりの大般若経が、ここかしこに散らばっていました。全部集めてみたところ、一部だけ見つかりません。

「昨晚、のぞき見をしなければ、全部そろっていたらうに……」と住職はとても残念がり、後にその不足分を買い求めました。

その後、村に悪い病がはやっても、このお経を唱えると、たちまち病は消え去ったので、遠くの村々まで評判になったということです。

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載していきます。

【参考文献】コミュニティ成田No.27(平成元年発行…成田市)



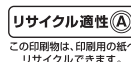
編集後記

広報なりたの校正を終えて夜中の11時ごろ、自宅へ続く住宅街の道を歩いていると、すごい勢いで何の明かりもなく横を通り過ぎる物体が…。そうです、無灯火の自転車です。道路交通法では、無灯火で自転車を運転すると5万円以下の罰金とか…。暑かった夏もようやく過ぎたと思うと、秋の日はつるべ落とし。アツという間に日が暮れます。自転車も早めの点灯で歩行者やドライバーに思いやりを。21日から秋の交通安全運動です。

平成24年9月15日号 No.1227

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。